

# プラスチックで環境にやさしく～プラスチックと私たちの生活～



私たちの生活に欠かせないプラスチック。プラスチックは自然に分解されにくいいため、知らないうちに環境が汚染され続けています。そこで今、改めてプラスチックについて考え、地球のためにできることを少しずつ始めてみませんか？

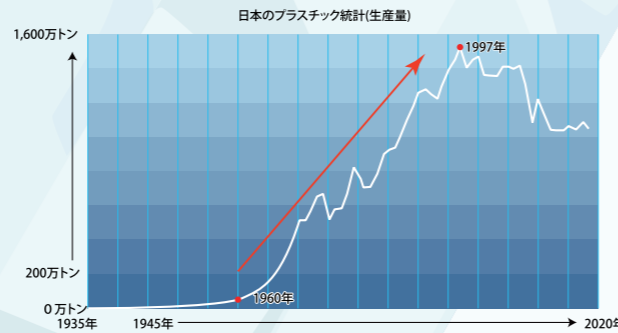
## プラスチックって何？

### 知ってる？プラスチックのこと

プラスチックとは人工的に作った樹脂のことで、合成樹脂ともいいます。樹脂とは元々、樹木から分泌される樹液が固まった物質のことで、代表的なものとして松やに、うるしなど天然樹脂と呼ばれるものがあります。天然樹脂は昔から塗料や接着剤などに使われてきましたが、採取量が少なく高価なものとなるため、石油などを原料として科学的に合成した合成樹脂がつけられました。

合成樹脂のひとつであるプラスチックは、簡単に安く作ることができるため大量生産されるようになり、日本においても生産量は1960年から1990年代にかけて、急激に増えました。しかし、プラスチックの生産量は、工場が海外に移ったことや、海外からの輸入が増えたことなど、様々な理由から、1997年をピークに減り、最近では横ばいです。

プラスチックは色々な特徴があり、様々なところで活用され、現在のわたしたちの日常生活で欠かせないものとなっています。



## プラスチックの良い点と悪い点

**○ 良い点**

- 加工しやすく大量生産が可能なので欲しいものが安く手に入るようになったよ
- 感染予防のために使い捨てができるのもプラスチックの特徴だよ
- 丈夫で軽く、衛生的にも優れているので医療現場でも多く使われているよ

**× 悪い点**

- 燃やすと二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)が発生し、地球温暖化にもつながるよ。また、プラスチックはほとんど自然分解されないんだ
- 二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)による気候変動や海洋汚染などの様々な環境問題が起こっているよ

しかし…私たちがプラスチックをたくさん使うほど、捨てられるプラスチックも多くなりました。

プラスチックは私たちに身近なものだからこそ、上手に付き合わない環境問題につながってしまいます。

プラスチックの丈夫な性質は良いこともあります、海などの自然環境に残ることから問題にもなります。しかし、生活に身近でとても便利なプラスチックをゼロにすることはできません。

## 資源になるプラスチック

プラスチックは再利用が可能な素材です。今まで捨てていたプラスチックをごみにするのではなく、資源としてもう一度利用すれば、プラスチックの使用をゼロにしなくてもごみを減らすことができます。

プラスチックを大切な資源として再利用するために、私たちができることを見ていきましょう！  
※プラスチック問題に対応するため、2022年4月に「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」が施行され、プラスチックを資源として回収することが区市町村の努力義務になりました。

### プラスチックは資源回収に出そう！

10月から豊島区全域でプラスチックの資源回収が始まりました！

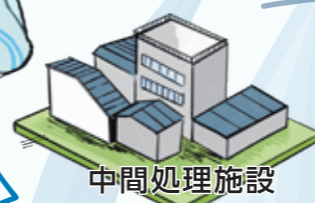
「プラマーク」があるものや、すべてがプラスチックでできているものは資源回収の対象です。詳しい内容は豊島区ホームページに掲載しています。

右記2次元コードよりご覧ください。  
【担当】豊島区環境清掃部ごみ減量推進課



「プラマーク」はプラスチック製容器包装の識別マークです。分別するときは、プラマークを見つけてみましょう！

### 集められたプラスチック



① 集められたプラスチックは中間処理施設というところに運ばれるよ



② 回収されたプラスチックの袋を機械で破り、風の力を利用して重いものと軽いものに分けるよ

### 回収されたプラスチックはどうなるの？ プラスチックのその後をのぞいてみよう



③ リサイクルできないものは人の手で取り除くよ



④ 大きくまとめて運びやすいようにしているよ

### 再生プラスチック製品



⑤ 再商品化事業者へ引き渡されて新しく再生プラスチック製品などに生まれ変わるよ

## vol.15 エコのわBOOK



### つかう？ やめる？ かんがえよう プラスチック

監修・解説: 田崎 智宏(国立環境研究所)  
訳: 清水 知佐子  
ぶん・キム・ウンジュ エ: イ・ジウォン  
発行者: 中村 宏平 発行所: 株式会社ほるぷ出版

使い終わったプラスチックはどこへいくの？プラスチックの歴史から、プラスチックごみの処理とリサイクルの方法、プラスチックごみが生き物に与える影響まで、プラスチック問題についてわかりやすく書かれています。豊富なイラストで優しく描かれているので、親子でも楽しめる一冊です。豊島区の図書館で借りることができます。